

[講演要旨]

アメリカ合衆国における災害救援の歴史と、転換点としての 1906年サンフランシスコ大地震

上田 貴和子(駒澤大学 非常勤講師)

§ 1. はじめに

本報告では、1906年に発生したサンフランシスコ大地震を起点とするアメリカ合衆国(以下、合衆国)における連邦レベルでの災害救援事業の発展の背景と、地震学者の活動に注目する。合衆国では1906年まで、原則としていかなる災害においても連邦政府は不介入の姿勢を貫いており、災害と救援、復興事業は被災した地域で解決すべき問題とされた。しかし1906年大地震後においては、セオドア・ローズヴェルト大統領率いる連邦政府、カリフォルニア州政府、慈善団体(アメリカ赤十字社)の三つの機関が素早く独自の救援事業を開始しており、今日の合衆国における連邦レベルでの災害救援事業の在り方の祖型となった。本報告は、20世紀初頭までの合衆国における災害救援事業の歴史から、1906年大地震後のローズヴェルトを中心とした連邦による積極的な救援事業の模索までを整理し、1906年大地震を、従来の合衆国における一地域の問題としての災害対応を全国的な関心事へと引き上げた合衆国の災害史上の転換点として位置づける。さらに、当時のカリフォルニア大学を中心とした合衆国内の地震学の発展と、地震学者の国際的な交流に注目することで、1906年大地震が合衆国内の問題に留まらず、世界的な関心事であったことに言及する。

§ 2-1. 1906年までの合衆国の災害救援の在り方

合衆国では、19世紀半ばまで通信・交通の面から連邦による災害救援事業には限界があった。そのため自然災害による人命救助、救援活動は、基本的に被災地で取り組むべき問題であった。また州権が強い合衆国では、特に南北戦争以前においては災害救援に関わる事柄であれ、連邦の権限が施行されることを州が嫌う傾向にあった。このように建国期から、合衆国では災害が発生した場合は地域、地方で対応が行われたが、港や都市が全壊するなど合衆国全体に関わる経済的損失が大きいと判断された場合は、連邦議会が特別法を制定し財政的な援助を行うなど、場当たりの対応を取っていた。一方でローズヴェルトまでの歴代大統領は一貫して、特定の災害に対して不介入の姿勢を取り続けた。この背景としては憲法上の理念や税金の分配方法について慎重な立場を取るという理由が大きい。1887年のテキサス州での記録的な干ばつへの救援法案に対しクリーブランド大統領が拒否権を発動したことからも、19世紀末まで大統領がいかに国内の災害救援事業に関わることがなかったかがわかる。

§ 2-2. 1906年サンフランシスコ大地震と連邦レベル

の救援事業のはじまり

1906年4月18日早朝に発生したサンフランシスコ大地震(マグニチュード 7.8)は、サンフランシスコ市中心部を約8キロ四方にわたって壊滅状態にした。死者の数は少なくとも約3000名以上とされ、合衆国史上初の大都市を直撃した自然災害として、また死傷者数、被害額ともに最悪の結果を出した災害の一つとして現在でも知られている。1906年は災害救援事業に介入することで連邦勢力拡大を狙う革新主義者のローズヴェルトを始め、19世紀後半から独自に災害救援事業を行ってきたアメリカ赤十字社が1900年に法人格を得たことで、災害救援事業に参入できる連邦レベルの機関が次々と出現した時期であった。一方でこれらの機関が自らの活動の範囲や役割を認識するに至っていなかった点で、これまで災害救援事業にあたってきた州政府、市当局などの地方勢力との対立が生じるきっかけとなった。このような災害対応における権限を巡る紛糾は、現在の合衆国の災害救援事業の在り方の祖型といえるだろう。

§ 3. 地震学の発展と、地震学者の国際的な交流

20世紀初頭は、1879年にアメリカ地質調査所(the United States Geological Survey)が連邦議会の承認のもとで設立されたことを始めとして、合衆国で地震学が地理学の一端としてではあるが、本格的に独自の発展を始めた時期であった。さらに1880年以降、地震が多い環境を活かしたカリフォルニア大学の地震学者ホールデンによる研究で、それまで東海岸の大学で研究が進められてきた地震学の中心地が西海岸へと移った。1906年大地震後には大森房吉を代表とする日本人地震学者によるサンフランシスコでの現地調査が行われ、その調査結果はカリフォルニア大学のローソンとの合同研究結果に収められている。

§ 4. 主要文献

California State Earthquake Investigation Commission; Andrew Cowper Lawson, Harry Fielding Reid, *The California earthquake of April 18, 1906* (Washington DC: Carnegie Institution of Washington, 1910)

Patrick S. Robert, *Disasters and the American State: How Politicians, Bureaucrats, and the Public Prepare for the Unexpected* (New York: Cambridge University Press, 2013)